

日曜学校教授法 講義ノート

担当：杉田キリスト教会 久保田顕

★このクラスの目的と目標★

目標 I 日曜学校教師の目的を理解する

II 教授方法を理解する

III 生徒を育成するために必要な知識・技術を習得する

*クラスの目的は ()
→ この目的は () 技術なのです。

I 日曜学校教師の目的

1. 教師のとは

日曜学校教師は、() である。

*どういう意味で【選ばれた】か→「変えていく生活」をするために。

() より多くもっていきましょう。

() 教育をする者として、喜びながら

() 心がけていきたい。

2. 教師の任務

これを神からの召しとして、() を求めるべきである。

*何のために求めるのか？

ローマ12章3～8節・第一コリント12章7～10節

() () ()

3. 教師の使命

<なぜ教えるのか>

①生徒たちが、キリストを() とするために

*体験的とは？

・祈り、賛美、御言葉から() を感じる体験

・日常生活において() と思う体験

⇒そのために() を用いていく。

教師は聖書に対して → ()

4. 教師の目的

②生徒たちの() と()

・人格の育成()

・教化とは()

II 教授方法

1. どのような日曜学校の授業を持ったら良いか。

日曜学校「授業」とは（ ）だけだと不十分。

「授業」とは①生徒の心を刺激
②真理をつかませ
③（ ）で考えさせる。→「考えたい！」という気にさせる。

*「教育」の定義（ ）

2. より良い教育「引き出し」を実現するための4原則

原則1：生徒が自分で（ ）、自分で（ ）訓練を身につけさせる。
注：質問・暗示を使って、自らで結論を出させるように‘身につけさせる’。

例：第一コリント4章1～6節を読んで・・・
「小学1年生の〇〇さんにこの箇所を説明して下さい。」

原則2：新しい真理を、（ ）に説明する。

原則3：生徒の（ ）などによって変えていく。
例：贖いの説明・・・（教師が陥るジレンマ）

原則4：授業は（ ）を大事にする

・（ ）・・・聖書を正しく理解する基本

・生徒が（ ）を理解する手助けとなる。

3. 具体的な授業の仕方

大前提：教師は（ ）べきである。

Q どんな方法があるか？

①教師が活躍する方法 「 」・・・教師が一方向的に話をする。

「 」・・・内容が物語で、教師が話す。

注意点・

・

②生徒の活動に任せる方法 「 」 + 「 」

注意点・

③教師と生徒が協力していく方法
「 」CS 向き
注意点・

「 」成人科
実演：聖書箇所：マタイによる福音書25章14～31節

1	概要 簡単に登場人物の紹介 お話しの流れを説明	
2	質問 ①1 タラントは日本円でどの位の価値があると思いますか？ ②5・2・1 タラントは差別だと思いませんか？ 理由も書いてください。 ③主人はなぜ5と2の僕に同じ誉め言葉？ (多少違っていいのでは？) ④1 タラントはなぜ怒られた？ ⑤5・2の僕、1の僕はどんな人？ 想像してみましょう。 ⑥5・2の僕はその後どうなった？	

注目点

- ・無理して話を進めない。
- ・発表した人には・・・
- ・重要な聖書の真理は・・・
- ・聖書に具体的に記されていない場合・・・

まとめ

- ・
- ・
- ・

4. 教師のお話の準備はどうすればよいか？ P45

①出来るだけ早く（ ））、毎日研究する。

②徹底的に研究する。

A：（ ）前に、授業すべき御言葉（ ）で調べよう。

B：お話を手助けするので、材料は（ ）に集めましょう。
*少なくとも5～6倍の材料

C：御言葉の（ ）を研究する

D：研究の結果をまとめる。

③教師が自らを整える。

E：（ ）をもって準備する。 *ヨハネによる福音書14章26節

F：教師としての備えをする

・生徒は（ ）を通して学ぶ。

・生徒は（ ）から学ぶ。

まとめ

・

・

5. 今日はどんな授業にしたいのか（その日のクラスの目標をたてよう） p59

前提：目的・目標を設定して教えよう！

たくさんの真理ではなく、（ ）色々な角度と方法で教えると良い。

A：テキストをしっかりと読んで、（ ）を見つける。

・中心テーマ・主題を見つけるポイント

①そのテキストの（ ）が指し示すものは何か

②そのテキストに（ ）を確認する。

③（ ）繰り返されている聖書の言葉をチェック。

④例話の場合は（ ）で、話されたかをチェック。

【やってみよう】

*ルカによる福音書10章25～37節の場合

(④→②→①・③)の順でチェック。

主題テーマは()

*ヨハネによる福音書1章43～51節

主題テーマは()

B:生徒の状況を把握し、その()を満たす設定をする。

- 生徒を把握する。
- 生徒の興味に合わせた主題作りを心がける。

Ⅲ 生徒を育成ために必要な知識・技術を習得する

1. 授業の進め方(立案)

①導入(緒論)

選び方篇(マタイによる福音書25章14～30節の場合)

A 生徒に()もの 復習など
*前の章節である「10人のおとめ」を復習する。

B ()をいだかせる もっと知りたい
*様々な国の通貨を紹介。→タラントの譬え

C ()を示す 中心テーマを導入部分で紹介。
*天国についての山手線ゲーム、天をイメージした絵画作成

②提示(本題) p78

A: 学科の要約 細かく見るのではなく、()にしてあげる。
→ざっと全体をみて()をじっくり見て行く。

B: 学科の展開 その授業の主題を導き出すための有効な()をする。
→その有効な質問が、学科の発展につながる。

C: 学科の説明 生徒の理解を深めるための方法として、()を用いる。

③結論部分

- ・頭に対して・・・授業の()し、生活と人生に()させる。
- ・心に対して・・・もっと()そして()に移していきたい。

まとめ・どの部分に強調点・簡略化をするかのテクニックが必要である。→経験と修練。

- ・準備したものを全部よりも、聖霊の流れに導かれるお話がベスト()

2. クラスの緊張（集中力）の維持のため

→そのために1. 注意を呼び起こし、2. 興味を抱かせることが重要！

①注意を喚起する。

- ・意志的注意・・・()
その後・・・
- ・非意志的注意・・・()

*これを維持するために①多様性 ②変化が必要。

②興味をいだかせる・・・学習意欲を高める手段となる。

*そのために何を教師はしたら良いか

- ・教師自身が()ことが大事。

・()を用いる。→意味：_____

- ・生徒の()に当てはめる。

3. 教師の緊張の維持

①教師が() →先生と生徒の熱心は比例関係

②準備を徹底的にする

- ・テキストは前に一度やっけていても、もう一度改めて研究し、準備し、
()

③絶えず気を配ること

- ・必要な時はちょっとした変化をくわえましょう。

④キリストの愛をもつ

- ・生徒を愛しましょう。

4. 授業の方法 p125

①「例え話」を用いる（正しい例え話の原則）

- ・説明する真理よりも () であること。

- ・すでに生徒が () しているものに訴える。

- ・その授業と () もの。
注：例え話は授業を理解に導くための () です。

- ・たくさんは必要ない。

- ・悪印象・悪い考えを引き起こさないもの。

・その他

*用意した例話を全部出し切る必要はなし

*例話と聖書の結び目で気をつけること

- ・例話と聖書の中心テーマの一致していること

- ・例話と聖書の状況に多くの共通点があること

②「視覚教材」を用いる。

・書く

ルール1

ルール2

ルール3

・実物を使用する

5. 話をして聞かせる

①生徒には話をきちんと聞くには段階がある。 実演：ルカによる福音書10章25～37節

第一段階 ()

第二段階 ()

第三段階 ()

第四段階 ()

まとめ

②そのための話法

・教師はそれを()で話せるぐらいまで覚える
1 場面ごとの設定を思い描ける程度

2 登場人物がどのような設定かが分かる。

3 順序良く、筋が通るように流れを掴んでいる。

・聞いている人が、話だけで()できるようにする。

【実演してみよう！】

ルカによる福音書19章1～10節

場面1 ザアカイの様子・声のトーン

場面2 木に登ったザアカイの心境

場面3 イエス様に声をかけられた時のザアカイの表情・心境

場面4 ザアカイが財産を施すと決めた時の心境

- 教師の（ ）を生徒に届けよう！
- 教師が（ ）（ ）と思わない話しは、生徒にも伝わらない。

6. 発表・質問による授業の仕方 p171

①学習過程

- 第一段階：印象 →（ ）

- 第二段階：発表 → _____

*「教育」は（ ）＋（ ）完全に成立する。

②質問による授業

質問によって発表させるのは、主に3つの理由がある。

1 その（ ）を発展させるため

2 生徒に考えさせるため

*極力さけるべき質問

→イエスかノーだけで答えることのできる質問

→授業の言葉のままを使って聞いたり、答えたりする質問

3（ ）を強調させるため

質問による注意事項

1. 不平等は避けましょう。
2. あまり聞く気のない子に質問をして、手間暇をかけるのも避けましょう。
3. 指名は一回だけでやめない。
4. 答えることのできなかつた生徒をまた指名しましょう。
5. 質問はクラス全体にしましょう。

教師として奉仕をするならば・・・・

- 1：日曜学校という働きは教会の一部であることを覚える
- 2：牧師と連携して、その奉仕をしていく。
- 3：しっかりと十分の1 献金や日々の献金を捧げる
- 4：礼拝姿勢において、生徒との模範となる態度でのぞむ
- 5：生徒に尊敬されるふるまいを、日々心がける。
- 6：生徒の前ではお互いを「チャン」呼ばわりせず、「先生」と呼び合う。

子どもの心を大切に

子どもの5つの欲求 アメリカの心理学者、ジェフリー・E・ヤング博士の研究

- ①好かれない、守られたい。
- ②うまくできるようになりたい。
- ③気持ちを表現したい。
- ④のびのび楽しみたい。
- ⑤ちゃんとしたい。実は生まれながらにちゃんと「したい」「実現したい」

聖霊により頼み、神の愛をいただきながら、聖書の真理を伝える教師となっていきましょう。